

コード	204010108
記入日	H23.6.10

事務事業途中評価表

課コード	114
課名	水道課
課長名	吉本 佳文
担当者	武石 浩一郎

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	新魚目南部地区簡易水道改良事業
----------	-----------------

事業種類	継続事業
事業期間	平成 20 年度 ~ 平成 24 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	2	政策名称	安全、便利、快適な生活環境づくり	款コード	1
施策コード	204	施策名称	暮らしを支える水道の整備	項コード	3
基本事業コード	20401	基本事業名称	安全で良質な水の安定供給の推進	目コード	1
事務事業コード	2040101	事務事業名称	簡易水道特別会計事業費	細目コード	678
関連計画	法令・条例規則等				

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1)	水道使用者 (新魚目南部地区)	(対象指標1)	3,612人			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段：全体、下段：評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
水源循環装置及び取水装置設置工 1.0式 導水管布設工 4,442.6m 導水ポンプ設備工 4台 調整池及び配水池築造工 1.0式 ポンプ操作室改修 1.0式 導水ポンプ井築造 1.0式 緩速ろ過池附属配管替 1.0式 滅菌設備 1.0式 調整池及び配水池附属配管替 1.0式 減圧弁設備及び減圧井附属配管替 1.0式 送水管布設替工 5,043.7m 配水管布設替工 17,956m 電気計装設備工 1.0式	(平成22年度) 本舗装送水管 1.0式、配水管 1.0式 似首送水管布設替工φ150 1,835.9m 管根・小串送水管布設替工 1.0式 浦桑第2送水ポンプ設備工 1.0式 配水管布設工φ100、75、25 1,356.6m 配水管布設替工φ50、30、25 171.0m 覆津配水池場内配管 1.0式 庁舎発電機室ロックウール除去工 1.0式 給水工 1.0式 浦桑浄水場、覆津・丸尾配水池、新魚目支所電気計装設備 1.0式	事業進捗率	62.5%	62.5%	実績工事進捗率+計画工事進捗率	平成24年度
		事業進捗率	20.0%	100%		平成22年度
		① (達成率分析)	計画どおり進捗している。			
		② (達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率 (上段：全体、下段：評価年度)				
・新魚目南部地区の老朽化した浄水施設を休止して、浄水場を2系列とし、大幅な経費の節減と管理の軽減を図る。老朽設備及び老朽管を改良し有収率向上と更なる安定給水を図る。また、水源についても水質改善を図る。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		有収率	82.0%	91.1%	有収率実績+目標有収率	平成24年度
		有収率	79.0%	87.8%		平成22年度
		① (達成率分析)	平成22年度については、老朽化したポンプの取替、送水・配水管の布設替の他、管路の舗装などを実施した。これにより、電気代の節減と布設替区間の漏水減が見込まれる。			
		② (達成率分析)				

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画
活動指標	①	%	100	62.5	42.5	20.0	20.0	20.0	17.5	
	②									
成果指標	①	%	90.0	82.0	85.0	90.0	79.0	90.0	90.0	
	②									
総事業費 C (A+B)	千円	840,500	522,498	350,240	168,500	172,258	169,500	152,260		
直接事業費 A	千円	823,000	511,998	343,240	165,000	168,758	166,000	148,760		
人件費 B	千円	17,500	10,500	7,000	3,500	3,500	3,500	3,500		
内訳	従事職員数	人	2.5	1.5	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円	400,000	250,000	170,000	80,000	80,000	80,000	70,000	
	県補助金	千円								
	起債	千円	406,000	255,900	171,000	85,000	84,900	80,000	70,000	
	その他	千円								
一般財源	千円	34,500	16,598	9,240	3,500	7,358	9,500	12,260		

評価

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	水道事業管理者である町が行うべきものである。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	水道水の安定供給は不変的なものであり、当然行うべきものである。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	水道利用者とする事で適切である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	老朽施設更新により改良区間の有収率向上等が図られ、一層の安定供給が確保される。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	随時計画の見直しを行い進捗しているため、向上させる余地はない。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	住民の生活に必要な水道水の供給が不可能になる。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	単一事業であり、他の事業と整理統合はできない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	最小の経費で最大の効果を得る設計となっているためできない。
	・人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	現在の人員を減らすことは事業を推進する上でできない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	平成18年10月に料金改定を行い、激変緩和措置期間を設け、平成21年度から全町の料金を統一した。また、直接的な受益者を限定できない。

改善

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ、計画を大幅に見直す必要はない。
		有効性	現在のところ、計画を大幅に見直す必要はない。
		効率性	現在のところ、計画を大幅に見直す必要はない。
		課題に向けた改善策	最小の経費で最大の効果が得られるよう、随時、計画実施の効果を検証し、翌年度以降の計画に反映させる。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	安定的な水道の供給に向け現事業を計画どおり進めること。
		効率性	事業の執行については適正に行うこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。